

未来の沖縄を生きる私達にできる事

沖縄尚学高等学校附属中学校

1年生 植村 あまね

私は沖縄の観光について汚れていく沖縄の海を問題視しています。沖縄県は沖縄観光客千二百万人と言う数値を目標に観光客を誘致しています。2018年には過去最高の九九九万九千人が沖縄を訪れたと発表されています。実際、私が住んでいる小禄地区のショッピングモールでも以前より多くの外国人観光客を目にします。時間帯によっては日本人よりも多いくらいです。

私の父は以前北部のリゾートホテルで働いていました。年々、外国からの利用者が増えてきていてホテルの雰囲気も変わってきたと感じたそうです。

このように訪れる観光客の数が増えると言うことは、沖縄観光の目玉であるビーチの利用者数も増えているということになります。利用者が増えれば日焼け止めやゴミの放置などにより海は必然的に汚れていきます。多くの人に沖縄の海を楽しんで欲しいと思う反面、このままたくさん観光客を受け入れていくことで、海の環境が汚染され、100年、200年後には沖縄の美しい海は変わり果て、結果として美しい海を求めてくる観光客もいなくなるのではないかと心配になりました。そんな時に母の友人のフランス人から「サステイナブルツーリズム」持続可能な観光という言葉を知りました。サステイナブルツーリズムとは、マストツーリズムの結果生じがちな環境や文化の悪化、過度な商業化を避けつつ、観光地本来の姿を求めていこうとする考え及びその実践と、定義されています。実際、ヨーロッパの富裕層はサステイナブルツーリズムに敏感なリゾート地しか旅行先に選ばないと言います。母の友人のフランス人達は「環境保全を重視した快適な宿泊施設が沖縄にはほとんど無いのが残念」だと言っていました。

観光のあり方を調べていく中で、2つの具体的な例を見つけました。

1つ目は、フィリピン・ボラカイ島です。ボラカイ島では観光客の急増により観光公害が発生し、大統領が「汚水のたまり場」と言うほどひどい状態になりました。そのため、一時的に島を閉鎖するにいたりしました。

一方、オーストラリアのロード・ハウ島では、島内の環境を保全するため、1日の宿泊者数に上限を設け、観光客数を制限しています。結果、自然環境が守られ、プライベート空間を望む上質な観光客にとってより魅力的なリゾート地として、その価値を高める事に成功しています。

沖縄は、どちらの道をたどるべきかと考えた時私は絶対的に後者を選ぶべきだと思います。そのためにはまず、観光にたずさわる人たちや、観光地の住人が持続可能な観光について認識を深めて行く事と、行政がそれを後おして行くことが必要だと思います。

小学校3年生の時私は、生まれて始めてビーチクリーニングに参加しました。ずっと、キレイだと思っていたビーチにこんなにゴミがある事にショックを受けました。私たち若い世代もこのようなビーチの現状を知り、それについて話し合う事が大事だと考えます。ビーチクリーニングのような具体的なアクション。同時に持続可能な観光と言ったリフレクション。この2つの柱が、「汚れていく沖縄の海」と言う問題を解決する役割をはたすと思います。ですから、私は同世代の友人達にこれから積極的にこれらの事を問題提起して行くつもりです。なぜなら、20年後30年後の沖縄を生きる私達の未来を作るのは、今の私たちの行動だからです。